

図書委員会からのおすすめの本

本好きのための 本好きに捧ぐ本

1冊目 『また、同じ夢を見ていた』

11月15日(月)放送分

まず1冊目は、住野よるさんの『また、同じ夢を見ていた』です。

「人生とは朝ごはんみたいなものなのよ」が口癖の小学生、小柳奈ノ花。奈ノ花には友だちがあまりいません。そんな奈ノ花の数少ない友だちはとても格好がいい‘アバズレさん’、手首に傷のある‘南さん’、一人暮らしのおばあちゃんと、しっぽのちぎれた猫です。奈ノ花が彼らと一緒に幸せとは何か?..をさがすお話です。

年齢も雰囲気もバラバラな三人の友だちの正体など、内容は少し謎もありファンタジーとミステリーが混じったお話です。

後半で鳥肌が立つほどびっくり..の展開です。

友だちが読んでいて面白そうだったので私もこの本を読みました。読んでみると読みながら自分も幸せとはなにか?と考えさせられます。

以前放送でも紹介された住野よるさんは『君の臍臓がたべたい』を描いた作家さんで、この本が2作目です。



図書委員会からのおすすめの本

本好きのための 本好きに捧ぐ本

2冊目 『わたしの美しい庭』

11月15日(月)放送分

2冊目は 凧良ゆうさんの『わたしの美しい庭』です。

統理と小学生の百音は屋上に美しい庭と神社のあるマンションで二人暮らしをしています。朝ごはんを食べる頃に同じマンションに住んでいる路有が遊びに来て、3人でごはんを食べます。この3人は血が繋がっていませんがそれぞれ楽しく暮らしています。

この話はマンションの屋上神社を舞台にくりひろげられる何気ない日常での人との関係と、このマンションに住む3人の話です。屋上の神社は「縁切りさん」と呼ばれて悪癖など払ってくれ 近所の人もやってきます。なぜ血の繋がりのない統理と百音と一緒に暮らすようになったのかという事情も読んでいくとわかってきます。同じマンションに住む桃子さんの恋のお話もあり、それぞれの話が繋がっていないように見えて最後まで読むとそれぞれが繋がっているのがみえて面白いです。

先輩に薦められて『流浪の月』で初めて凧良さんの本を読み、この作家さんが好きになり、他の作品も気になったので読みました。複雑な気持ちにもなるところもあるけど、やさしさあふれるお話なので是非読んでみてください。